

福知山の光秀史跡と伝承の地

	史跡・伝承の地	場所	概要
1	福知山城	内記	明智光秀が築いた城として有名。現在の天守は江戸時代の凶面をもとに設計され、昭和61年に再建された。
2	福知山城の石垣	内記	「野面積み」という自然石や粗割石をそのまま加工せず用いている。石垣の中には五輪塔や宝篋印塔の基礎や笠を石材として使用した「転用石」がおおよそ500個確認されている。
3	御霊神社（御霊神系略）	中ノ	上紺屋町に榎の太木があり、その下に稲荷社があって宇賀御霊神を祀っていた祠に、光秀公の霊を合祀した。
4	御霊神社文書	中ノ	御霊神社に伝来する明智光秀の書状3通。天正6年奥村源内宛、天正9年片山・出野宛、家中軍法の3通である。史料は福知山城寄託。本能寺の変の1年間に書かれ、落ちぶれた境遇から見出された信長への感謝を記す。
5	天寧寺	大呂	地元の土豪大中臣氏が招いた名僧愚中周及を開山とする。光秀と明智秀満が天寧寺に与えた判物が伝わっている。
6	天寧寺文書	大呂	光秀が天正8年2月に陣取と竹木伐採を禁止した判物と、9年10月に秀満が光秀判物を追認した判物2通が残る。
7	猪崎城	猪崎	光秀の横山城攻めに抵抗した横山大膳の弟が籠ったという。鬼ヶ城の麓の由良川を望む丘陵上にあり、曲輪や空堀が残る。
8	鬼ヶ城	南山・中	天正7年7月光秀軍は鬼ヶ城を攻めて放火し周囲に砦を築いた（「信長公記」）。鬼ヶ城は標高544m。丹波と丹後の国境にある。
9	威光寺	下佐々木	威光寺を囲んだ光秀軍の軍使妻木某と威光寺の住職が同郷の美濃の出身であったため、威光寺は破却を免れた。さらに本堂の手入れをしてここに住職を住まわせたと伝わる。
10	威光寺文書	下佐々木	「寺社御改二付一札」に光秀が福知山城普請の時に近隣寺院を潰し石塔を運ばせたという伝承を記す。威光寺は軍使妻木と住職が同郷であったため、取り壊しを免れたという。
11	浄仙寺	河守	地元の土豪、新治氏が構えた河守城の麓にあった城館跡に建立された寺。天正9年光秀と津田宗及一行が福寿軒の接待をうけた場所とも言われている。
12	福知山音頭	旧城下・市内全域	光秀が福知山城築城の時に石垣を運んだ掛け声が音頭になったと伝えられている。
13	武智光秀の瓦	額田	夜久野町の民家で発見された江戸後期の平瓦で、福知山城の天守閣と多聞櫓を描く。「武智光秀城」と彫られている。福知山城保管。
14	福知山城下町		丹波を平定した光秀は城下町を整備して、地子銭（税金）を免除して商業に盛んにしたと伝える。
15	蛇ヶ端御藪（明智藪）	内記	福知山城を築城し城下町整備にあたった光秀は、由良川と土師川が合流し常に水害に見舞われていた城下を守るため、「明智藪」を築いたという。
16	雀部鍛冶「丹州住通明」銘の槍（丹波志）	前田	雀部鍛冶がうった槍を光秀が作りは粗いが物を良く通す槍だとして「通明」と名付けたと伝わる。
17	荒木神社（丹波志）	堀	光秀が築城の時に荒木神社の卵塔や古墓の石材を運び取った。
18	観音寺（丹波志）	観音寺	真言宗の古刹。古くは寺中に8カ寺あったという。中門の門柱は明智の兵火に罹ったが、焼け残ったという。
19	古城茶臼山（丹波志）	厚	横山大膳の嫡子が籠り、光秀に攻め落とされたという。姓を和久と改めたと伝わる。
20	経ヶ端城（丹波志）	上川合	西山蟻之助は黒井城主赤井悪右衛門の家臣で黒井落城後、経ヶ端城に入った。光秀の城普請に呼び出され、20人持ちの大石を持ち上げたところを討ち取られたという。下川合に墓が残る。
21	市寺山（太邇波記）	市寺	光秀が福知山城を築いたとき、市寺の「千年山」から材木を採ったという。
22	由良川流路（丹波志）		光秀が福知山城を築城の時に切通を設け、その土を堀村の「井ノ口」から和久市付近まで凡そ1.5kmの堤を築いたと伝える。
23	梁飾り・釘隠し	御霊神社・中ノ	旧福知山城の裏門の上にあったものを、明治7年(1874)の廃城の時に取り払われたと伝える。桔梗の花形をかたどっている。
24	伝四王天但馬守政孝着用臙当	御霊神社・中ノ	明智光秀の重臣、四王天政孝が着用したと伝えられている。城下の商人が福知山城内で発見し奉納したもの。
25	庵我神社（横山硯）	中	横山城の麓にあった八幡神社を光秀が縄張りのときに庵我の聖大神の社地に移したという。
26	古城万灯山（丹波志）	友瀨	古城主は明智兵庫頭という。兵庫頭はここから福知山に移ったと伝えられている。また、東の山上看張り場があったともいう。
27	阿能の局石	千原	光秀が推挙した信長の愛妾、阿能の局の供養石。本能寺の変後、局は千原に戻ったという。
28	福知山の地名（福知山支略）		福知山の地名は和泉式部歌集に「丹波なる吹風の山の紅葉は散らぬ前よりちるかと思ふ」という歌の「吹風山」に光秀が「福知」という文字を置いたと伝えられている。
29	吉良兵衛（丹波志）	岩間	城普請のとき、光秀より奉行を命じられた。城が完成し帰郷の際に土師川において殺されたという。
30	荒木寺（太邇波記）	堀	荒木寺の礎石や石塔を運び取って福知山城を築いたと伝える。
31	中村大泉寺（太邇波記）	中	中村の大泉寺の石垣を福知山築城の時に大方取って用いたと伝える。
32	西山蟻之助（丹波志）	下川合	黒井の荻野直正の家臣で、元経ヶ端城主。福知山城普請に呼び出され、剛力で大石を持ち上げたところを暗殺されたという。

<p>1 福知山城【内記】 明智光秀が築いた城として有名。現在の天守は江戸時代の図面をもとに設計され、昭和61年に再建された。</p> 	<p>2 福知山城の石垣【内記】 「野面積み」という自然石や粗割石をそのまま加工せずに用いている。石垣の中には五輪塔や宝篋印塔の基礎や笠を石材として使用した「転用石」がおよそ500個確認されている。</p> 	<p>3 御霊神社（御霊神略）【中ノ】 上紺屋町に榎の大木があり、その下に稲荷社があって宇賀御霊神を祀っていた祠に、光秀公の霊を合祀した。</p> 	<p>4 御霊神社文書【中ノ】 御霊神社に伝来する明智光秀の書状3通。天正6年奥村源内宛、天正9年片山・出野宛、家中軍法の3通である。史料は福知山城寄託。本能寺の変の1年間に書かれ、落ちぶれた境遇から見出された信長への感謝を記す。</p> 
<p>5 天寧寺【大呂】 地元の土豪大中臣氏が招いた名僧愚中周及を開山とする。光秀と明智秀満が天寧寺に与えた判物が伝わっている。</p> 	<p>6 天寧寺文書【大呂】 光秀が天正8年2月に陣取と竹木伐採を禁止した判物と、9年10月に秀満が光秀判物を追認した判物2通が残る。</p> 	<p>7 猪崎城【猪崎】 光秀の横山城攻めに抵抗した横山大膳の弟が籠ったという。鬼ヶ城の麓の由良川を望む丘陵上にあり、曲輪や空堀が残る。</p>  <p>HP山城賛歌より</p>	<p>8 鬼ヶ城【中・南山】 天正7年7月光秀軍は鬼ヶ城を攻めて放火し周囲に砦を築いた（「信長公記」）。鬼ヶ城は標高544m。丹波と丹後の国境にある。</p> 
<p>9 威光寺【下佐々木】 威光寺を囲んだ光秀軍の軍使妻木某と威光寺の住職が同郷の美濃の出身であったため、威光寺は破却を免れた。さらに本堂の手入れをしてここに住職を住ませたと伝わる。</p>  <p>HP丹後の地理歴史資料集より</p>	<p>10 威光寺文書【下佐々木】 「寺社御改二付一札」に光秀が福知山城普請の時に近隣寺院を潰し石塔を運ばせたという伝承を記す。威光寺は軍使妻木と住職が同郷であったため、取り壊しを免れたという。</p> 	<p>11 浄仙寺【河守】 地元の土豪、新治氏が構えた河守城の麓にあった城館跡に建立された寺。天正9年光秀と津田宗及一行が福寿軒の接待をうけた場所とも言われている。</p> 	<p>12 福知山音頭【旧城下・市内全域】 光秀が福知山城築城の時に石垣を運んだ掛け声が音頭になったと伝えられている。</p> 
<p>13 武智光秀の瓦【額田】 夜久野町の民家で発見された江戸後期の平瓦で、福知山城の天守閣と多聞櫓を描く。「武智光秀城」と彫られている。福知山城保管。</p> 	<p>14 福知山城下町 丹波を平定した光秀は城下町を整備して、地子銭（税金）を免除して商業に盛んにしたと伝える。</p> 	<p>15 蛇ヶ端御藪（明智藪）【内記】 福知山城を築城し城下町整備にあたった光秀は、由良川と土師川が合流し常に水書に見舞われていた城下を守るため、「明智藪」を築いたという。</p> 	<p>16 雀部鍛冶「丹州住通明」銘の槍（丹波志）【前田】 雀部鍛冶がうった槍を光秀が作りは粗いが物を良く通す槍だとして「通明」と名付けたと伝わる。</p> 

<p>17 荒木神社（丹波志）【堀】 光秀が築城の時に荒木神社の卵塔や古墓の石材を運び取った。</p>  <p>HP神社のある風景より</p>	<p>18 観音寺（丹波志）【観音寺】 真言宗の古刹。古くは寺中に8カ寺あったという。中門の門柱は明智の兵火に罹ったが、焼け残ったという。</p>  <p>HP丹波霧の里より</p>	<p>19 古城茶臼山（丹波志）【厚】 横山大膳の嫡子が籠り、光秀に攻め落とされたという。姓を和久と改めたと伝わる。</p>  <p>HP丹波霧の里より</p>	<p>20 経ヶ端城（丹波志）【上川合】 西山蟻之助は黒井城主赤井憲右衛門の家臣で黒井落城後、経ヶ端城に入った。光秀の城普請に呼び出され、20人持ちの大石を持ち上げたところを討ち取られたという。下川合に墓が残る。</p> 
<p>21 市寺山（太邇波記）【市寺】 光秀が福知山城を築いたとき、市寺の「千年山」から材木を採ったという。</p>  <p>HPたんばやまだより</p>	<p>22 由良川流路（丹波志） 光秀が福知山城を築城の時に切通を設け、その土を堀村の「井ノ口」から和久市付近まで凡そ1.5kmの堤を築いたと伝える。</p> 	<p>23 梁飾り・釘隠し【御霊神社 中ノ】 旧福知山城の裏門の上にあったものを、明治7年(1874)の廃城の時に取り払われたと伝える。桔梗の花形をかたどっている。</p> 	<p>24 伝四王天但馬守政孝着用臈当【御霊神社 中ノ】 明智光秀の重臣、四王天政孝が着用したと伝えられている。城下の商人が福知山城内で発見し奉納したもの。</p> 
<p>25 庵我神社（横山硯）【中】 横山城の麓にあった八幡神社を光秀が縄張りのときに庵我の聖大神の社地に移したという。</p> 	<p>26 古城万灯山（丹波志）【友瀨】 古城主は明智兵庫頭という。兵庫頭はここから福知山に移ったと伝えられている。また、東の山上に見張り場があったともいう。</p> 	<p>27 阿能の局石【千原】 光秀が推挙した信長の愛妾、阿能の局の供養石。本能寺の変後、局は千原に戻ったという。</p> 	<p>28 福知山の地名（福知山支略） 福知山の地名は和泉式部歌集に「丹波なる吹風の山の紅葉は散らぬ前よりちるかと思ふ」という歌の「吹風山」に光秀が「福知」という文字を置いたと伝えられている。</p> 
<p>29 吉良兵衛（丹波志）【岩間】 城普請のとき、光秀より奉行を命じられた。城が完成し帰郷の際に土師川において殺されたという。</p> <p>30 荒木寺（太邇波記）【堀】 荒木寺の礎石や石塔を運び取って福知山城を築いたと伝える。</p>	<p>32 西山蟻之助（丹波志）【下川合】 黒井の狐野直止の家臣で元経ヶ端城主。福知山城普請で、剛力を見せるため大石を持ち上げたところを暗殺されたという。下川合に墓が残る。</p> 		
<p>31 中村大泉寺（太邇波記）【中】 中村の大泉寺の石垣を福知山築城の時に大方取って用いたと伝える。</p>			

福知山の光秀史跡と伝承の地

